

# 水の鏡に映る自然

身をかがめ、清流の中にカメラを入れる。赤や黄色など鮮やかに色づいた川べりの木々に、太陽光が降り注ぐシャッターチャンスを待つ。

## 横浜の写真家・豊田さん、水源撮影



①清らかな水中で、川底と色づいた木々が溶け合う＝山北町②石にぶつかり躍動する川の水＝相模原市緑区の宮ヶ瀬湖上流、いずれも豊田直之さん撮影

## 「海の最初の一滴」追う



横浜市港北区の写真家、豊田直之さん(53)は「水の循環・輪廻」をテーマに神奈川の水源で、水中撮影をしている。「水がフィルタ



ーや鏡のような役割をするから、不思議な写真が撮れる」と魅力を語る。

中学生の頃から釣りが好きだった豊田さん。東京水

産大(現・東京海洋大)に進学し、卒業後は船舶用電子機器のメーカーでセールスエンジニアを勤めた。しかし4年後、「このまま会社の歯車として働いているといつか行き詰まる」と思い、夢だったイセエビ漁師に転職。船大工やダイビングのインストラクターなどの仕事も経験した。転職が訪れたのは、釣り雑誌のライターをしていた27歳の時だった。

自分の原稿と、同行するカメラマンの写真のイメージが合わないと感じた。「それなら自分で撮ろう」とカメラを購入。写真の専門学校に通うべきか迷っていた時、東京・西麻布の居酒屋で偶然、水中写真家の中村征夫さんと出会った。「人生の節目で良い人にめぐり合えた」と豊田さん。2年半、中村さんのアシスタントとして写真を学び、31歳で水中カメラマンとして独立した。

真っ赤なサンゴを見た時は竜宮城にいるかのような気持ちになった。魚がエサを食べる瞬間の迫力に圧倒され、海に魅了された。

約6年前、海に潜っていた時、「この大量の水はど

こからくるんだろう」と素朴な疑問が浮かんだ。川から始まる「海の最初の一滴」を撮影しなければ、海を撮ったことにならない。以来、「水の循環・輪廻」が大きなテーマになり、水そのものを追いかけるようになった。

今年には山梨県道志村や山北町玄倉川上流など、神奈川の水源地に足を運び、撮影を続ける。

「撮影をしながら、神奈川の水源が美しいことに自

分でも驚く。多くの人に水の美しさ、大切さを知ってほしい」と語る。来年4月には、四季折々の自然と水を映した写真展を横浜市内で開催する予定だ。

神奈川の水源にたどり着いた豊田さんの目標は「地球の水の輪廻」を表現すること。エベレストに登り、潜水調査船「しんかい6500」に乗って深海に潜り、未知の世界を撮影したい。その探求心は尽きない。(大坪実佳子)



## 大山幻想の紅葉

あすからライトアップ

紅葉で名高い伊勢原市大山の大山寺、大山阿夫利神社下社周辺のライトアップが23日から始まる。21日には試験点灯があり、色づいた木々が闇に浮かび上がった。

市によると、大山の紅葉は10月下旬に山頂から色

工場見学川崎  
044-443-0200

〈21日〉横浜市の柏木泰知君ら2人。